



「友達の家で遊ぶ」。「住宅展示場へ行く」  
の場合はどうでしょうか。「家」と「住宅」  
を入れかえたら、「友達の住宅で遊ぶ」。「家  
展示場へ行く。」となってしまうます。なん  
だかおかしいですね。  
このように「体験」と「経験」、「家」と  
「住宅」では、意味は似ていても使い方が異  
なっていることが分かります。類義語の使い  
分けをまちがってしまったり、どこかおかしい  
日本語になってしまっているのです。そればかりか  
言いたいことが相手に正確に伝わらないこと  
もあるかもしれません。  
言葉で何かを伝えるとき、そもそも知って  
いる言葉が少ないと、最もふさわしい言葉を  
選ぶことができません。言葉についての知識  
を「言葉の引き出し」にたとえてみましょう。  
たくさんの引き出しの中から、最もふさわ  
しい言葉を選んで取り出すことができれば、  
上手に日本語を使えるようになります。逆に  
引き出しの中身が少なかったり、すぐに取り

出せるように整理できていなかったりしたら  
日本語を正しく使えないままに生活していく  
ことになりました。  
わたしは、この六年間で日本語についてた  
くさんのことを学びました。そして、これか  
らも毎日日本語を使いながら生活していきま  
す。類義語を正しく使い分けるためには、日  
本語に対しての感覚をみがいていかなければ  
なりません。本を読んだり、様々な情報を受  
け取ったりしていく中で、たくさんの日本語  
にふれながら、日本語に対しての感覚をもつ  
とみがき、「言葉の引き出し」をどんどん増  
やしていきたいです。そして、正しい日本語  
を使えるようになりたいです。